

2020 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [立命館守山中学校・高等学校] 担当教諭名 [吉本 恵子・菊池 恵] (美術部等 40名)
 相手国・地域 [インド]
 海外学校名 [The Global Edge School] 担当教諭名 [Kalyani Voleti]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教 科	単 元 名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	クラブ活動等	アートマイルプロジェクト	40

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	Creative solutions in a post COVID world
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	Together let us create a connected world



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でも、何もできないと思うのではなく、共通の課題を発見し、議論することで、自分たちにできることは何かを考えることができた。 ・SDGs をもとに世界共通の課題を議論することで、多様な文化背景を持っていても、同じ課題について問題意識を持っていて自分たちが考える必要があることを確認し合えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Zoom による交流をメインとしたが、最初は積極的に参加していた生徒も、英語力に自信ない生徒は参加しにくくなっていった。Zoom だけではなく、その他の手段でももっと交流すべきであった。 ・どのようなメッセージや思いを作品に表現するのをもっと議論し、制作するべきであった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナによって生まれた差別や不平等さが日本だけでなく、インドでも行われている現実を知り、差別をなくすことは難しいと思っていたが、自分たちに今できることは何かを考えました。もっと小さな子供達に SDGs などの世界のあらゆる課題を解決する思考力をつける機会を作るべきではないかと考えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が今おかれている、国々が隔絶されている現状の中でも、その現状を前向きにとらえて、今だからこそ自分たちにできることは何かを考え始めたので、それを実現するためにはどのような環境や仕組みが必要か考え、応援しようと思った。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	7月 8月	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介カードを作成し、お互いに交換。 Zoomにより全体で学校紹介の生徒発表後、グループセッションで文化紹介・自己紹介を実施。約60名参加。 	<ul style="list-style-type: none"> どのような生徒と交流が始まるのか興味津々だった。 パートナー校の生徒の積極的な姿勢に驚くと共に、自分たちももっと積極的になろうと意欲的になった。 英語での交流に不安を持っていたが、交流は楽しめて、もっと交流したいと思った。 	美術部 参加希望 生徒
共有 テーマ学習	8月 9月	<ul style="list-style-type: none"> The Global Edge Schoolのインドの独立記念日の祭りに招待され参加、平和について生徒がスピーチした。 ZoomにてSDGs(持続可能な開発目標)に関する両国の状況について話し合う。グループごとにSDGs個別トピックにつき両国での達成状況やコロナ禍の課題についてインド・日本相互にプレゼンを行い、我々にできることは何なのかを議論した。 	<ul style="list-style-type: none"> お互いの国が平和を願う気持ちは同じであることを再確認した。 同じ課題でも考え方の違いや共通点を発見した。 それぞれの国でのコロナの社会への影響を分かり合い、コロナ禍だからこそSDGsについて深く考えることや、一人ひとりの意識改革が必要であることを学んだことに喜びを感じた。 SDGsと語学の2つの面から学ぶことができてよかったと思った。 	美術部 参加希望 生徒
融合 メッセージ作成	10月	<ul style="list-style-type: none"> Zoomにより「Creative Solutions in a post COVID world」壁画のデザインとメッセージを議論 フォーラムでテーマ決定 	<ul style="list-style-type: none"> お互いの作品に対する思いとデザインについての意見を交流したが、インド側のデザインに対する一人ひとりの思いがそれぞれあり、その思いを一つの形にする事の難しさを実感した。 	美術部
創造 壁画制作	11月 12月	日本側壁画制作	<ul style="list-style-type: none"> メッセージやイメージを共有しながら一つの作品を制作する難しさを感じながらも、協働制作を楽しんだ。 	美術部
評価 振り返り 自己評価	3月	振り返りや感想をフォーラムやカードで交流	自分たちの作品に合わせて作品をうまく完成させてくれたことに感動し、感謝した。	美術部

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つきたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化・自文化を理解する力	4	<ul style="list-style-type: none"> •Zoomでの自己紹介や文化交流 直接交流することで、文化の違いや共通点を体感できた。交流がきっかけで、自国の文化を調べたり再認識することができた。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	4	<ul style="list-style-type: none"> •SDGs(持続可能な開発目標)に関する両国の状況についての Zoomでの意見交流 SDGs 個別トピックにつき両国での達成状況やコロナ禍の課題についてインド・日本相互に議論したことにより、日本の政府や社会の現状、世界の状況に疑問を持った。
主体的に考え行動する力	4	<ul style="list-style-type: none"> •SDGs(持続可能な開発目標)に関する両国の状況についての Zoomでの意見交流 コロナ禍でそれぞれの国で差別が起こっている現状を知り、それを嘆くのではなく、我々にできることは何なのかを考える必要があると生徒が思った。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	4	<ul style="list-style-type: none"> •壁画のデザインやテーマを決定するための Zoomでの交流 共有したテーマをどのようなデザインで表現するのかを意見交流する中で、互いの文化や意見を尊重しながら協働することに難しさを感じながらも、最後にまとまったときは感動と達成感があった。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	4	<ul style="list-style-type: none"> •壁画制作 自分たちの想いをデザインとして表現するにはどうすべきかを制作の途中で何度も議論し、イメージとテーマを他者と共有、確認しながら制作した。